

麻生区民会議 第8回若い世代が住みやすいまちづくり部会 議事要旨

- 1 開催日時：平成27年7月24日（金）午後3時00分～午後5時00分
- 2 開催場所：麻生区役所第4会議室
- 3 出席者：〔専門部会委員〕石井委員、金光委員、志村委員、白井委員、菅野委員、
吉垣委員
（欠席）上野委員、梶委員、高橋委員、山田委員
〔事務局〕企画課 白石担当係長、佐藤 〔コンサルタント〕佐藤
- 4 傍聴者 1名
- 5 議 事

（1）企画部会からの報告について

- ・第7回企画部会の審議内容について菅野委員より説明。子育てフェスタへの参加の呼びかけ、フォーラムの検討について報告。

（2）調査審議課題の検討について

【空き家の利活用について】

●不動産団体との意見交換

不動産団体から、現在の空き家に関することに説明。

- ・年齢層が高いことから、今後空き家が増加していく。
- ・所有者の住所、名前は法務局で分かるが、相続の手続きをしていない等で、所有者が不明なことから、動かせない空き家がある。
- ・真の所有者を探すには、行政の協力が必要で、所有者の意見を聞いて流通させていく。
- ・子どもに面倒をかけたくないということから、家を子どもに託すことができないこともある。
- ・家族（民事）信託制度をうまく活用していかないといけない。
- ・空き家対策について、一人一人抱える問題が違うことから、それらにあわせて提案をしていかないといけない。
- ・思い出が残っている家具や調度品を処分できない人がいる。

《主な意見》

- ・学生が下宿先を探したいといった場合、不動産業界で対応は可能か。→空き部屋を貸してもよいという大家さんはいる（高齢者）。事例もあるが、細かなルール作りが必要。細かなルールがないと互いに溝が広がってしまうことがある。
- ・シェアハウスや地域のカフェみたいにし、地域の住民が活用できるようにできないか。→活用はできるが、場所によってということになる。集まりやすいような流れのある場所ならいいが、流れがない場所は難しい。
- ・シェアハウスができるようにリフォームが必要になる場合、補助金の制度が必要になるのかどうか。→近隣の都市では、補助金制度を使っていこうという雰囲気がでているが、補助金の制度は次の世代に負担をかけることになる。

《決定事項》

- ・質問事項については、不動産団体の方で回答できる範囲を次回以降回答してもらう。
- ・学生課へのヒアリング内容について次回勉強会にて検討する。

【麻生区の魅力のブランド化とPR】

●子育てフェスタアンケートの内容について

《主な意見》

- ・不審者が目撃されることがあるが、麻生区全体を見ると、件数は少なく、安全なまちといえるのではないか。
- ・各自治会でのパトロールが盛んなことにより、見守りが強化されているのではないか。
- ・南百合丘小学校では付近のパトロールを外部委託している。
- ・保育中に習い事ができたらよい。
- ・塾の帰りなど、迎えの親を子どもだけで待っているのは危険ではないか。
- ・アンケートの内容2に「どちらかの親が麻生区に住んでいたから」「転勤が理由」を追加してはどうか。
- ・アンケートの内容4に「沿線に私立学校が多い」「学校に通いやすい」「教育水準が高い」を追加してはどうか。
- ・「新百合ヶ丘＝ブランド」として認知されている。
- ・駅周辺で音楽や演劇を頻繁にやると、芸術のまちということがさらに認知されるのではないか。
- ・地域に子どもをどう取り込むか
- ・アンケートの内容5のいいえを選んだ後に、その理由を選択できるようにしてはどうか。例えば物価が高いとか、安く食べられるところがないとか。
- ・子どもの預け先は多くあるように思うが、病気の時に預けられる場所がない。
- ・特に女性は子どもができて親元の傍に住む傾向があるのではないか。
- ・子どもと入れる店がないことや子ども向けのイベントが少ないように感じる。
- ・地域に子どもをどう取り込むかという相談をうけることがある。地域のイベントに子どもが参加できるというのは一つの魅力にならないか。

《決定事項》

- ・子育てフェスタのアンケート内容に次の項目を追加してもらう。
- ・麻生区の何をブランドと感じるか。
- ・麻生区の魅力でPRしたい所はどこか。

(3) 次回について

- 8月21日（金）午後1時から勉強会を開催し、アンケートの内容、学生課へのヒアリング項目を精査する。
- 子育てフェスタでの実施体制について検討する。
- 学生課へのヒアリングの実施体制について検討する。

以 上